

11 番(小川義昭君)

それでは、最後の質問になります。

風邪やインフルエンザが流行する季節となりました。インフルエンザの感染力は非常に強く、感染すると38度以上の発熱、頭痛、関節痛、筋肉痛など、全身に症状があらわれ、子供の場合は、まれに急性脳症を発症し、高齢者や免疫力の低下している人は、肺炎のおそれが増すなど、重症になることがあります。

日本では毎年、およそ1,000万人、約10人に1人の割合で感染しています。予防については人混みを避けること、手洗いやうがいの励行でウイルスを体内に取り込まないことが重要ですが、流行前のワクチン接種が重症化を防ぐ上で、最も効果的であることは、皆さん御承知のとおりであります。

こうしたことから、平成13年に予防接種法が改正され、インフルエンザ予防接種については、65歳以上の方や65歳未満のうち心臓病などの機能に障害を有する方、また免疫力の機能障害を有する方などが定期予防接種の対象となり、一部自己負担で、残りは公費で賄うこととなり、本市もまた公費の一部負担制度を導入して、個人負担金1,200円で予防接種が可能となっています。

これに対して、子供へのインフルエンザ予防接種は、かつて法定接種として小学校において集団接種が行われていましたが、平成11年の日本小児学会が1歳から6歳未満の乳児について、予防接種の有効率が20%から30%にとどまっているとして、法定予防接種ではなく、任意予防接種が妥当とする見解を打ち出しています。

それ以来、インフルエンザに感染して重症化する報告が多いにもかかわらず、子供の予防接種は今も任意のままとされ、しかも免疫がないため、毎年の接種が欠かせない上、13歳未満は1シーズンに2回の接種が必要とされ、今日に至っています。

インフルエンザの予防接種にかかる費用は、医療機関や地域によってばらつきがあり、全国的には最高3,800円から最低3,000円の範囲内で設定され、接種費用の平均額は約3,500円とされています。

白山市における子供の任意予防接種費用の一部助成は、平成28年度から対象予防接種が拡大されています。これにより、現在の措置状況は、生後2カ月から中学3年生までを対象とし、子供1人につきインフルエンザだけでなく、おたふく風邪、B型肝炎、ロタウイルスも含め助成券が1年度1回限り、助成額は1,000円とされています。

白山市で3人の子供を持つ世帯では、まず夫婦の接種費用が7,000円、子供たちの接種費用が3,500円掛ける3人掛ける2回で、しめて2万1,000円、そこから市の子供3人分の助成費3,000円を引くと1万8,000円となり、家族合計が2万5,000円という計算になります。子育て中の若い世帯にとって、これはかなりの負担とって過言ではありません。

このため、高額な予防接種は受けないこととし、罹患してから医療機関を受診することにより、結果として無料での保険診療で事は足りるといった誤った判断を行い、あえて我が子に予防接種をさせない家庭さえあるそうです。そうなれば、保育園や小・中学校などで、他の子供にインフルエンザが感染し、学級閉鎖や学年閉鎖にならないとも限りません。

私は、山田市長が公約に掲げられた安心して暮らすことができ、子供を生み育てることができる環境を提供するという施策の推進はことのほか重要だと考えています。それ以上に市長が1期目に打ち出された18歳未満の子供に対する医療費の無償化事業は、白山市独自の施策として若い世帯に大変好評であり、これから出産しようとする若い夫婦や子育て世帯が市外から移り住むケースもふえています。

であるからこそ、今再び子育て支援策の一環として乳幼児を初め義務教育機関の子供たちを対象としたインフルエンザ予防接種費用の助成をより一層拡充していただくよう強く要望いたします。市長のお考えをお聞かせ願います。